

2023年3月理事会議事録

日 時：2023年3月25日（土）14：00～17：50

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出席：辻 秀人・大竹幸恵・佐藤宏之・足立佳代・足立拓朗・岩本 崇・大坪志子・黒沢 浩・小菅将夫・澤田秀実・田尻義了・谷口 榮・野口 淳・肥後弘幸・藤沢 敦・藤野次史・水本和美・溝口孝司、監事：都築恵美子・萩野谷 悟、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

欠席：岡林孝作・亀田直美・高倉 純・谷畑美帆・日高 慎・高麗 正

進行：藤沢 敦

議長：辻 秀人

藤沢理事から、本日の出席者は20名（うち理事18名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

小菅理事から、福島県の長尾 修会員が2022年7月6日、静岡県の石川治夫会員が12月28日、埼玉県の上野佳也会員が2023年1月31日、奈良県の坂 靖会員が2月8日、三重県の藤原秀樹会員が2月26日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第714号 退会会員の承認について

小菅理事から、北海道の*会員、青森県の*会員、岩手県の*会員・*会員、福島県の*会員、茨城県の*会員、群馬県の*会員、埼玉県の*会員、東京都の*会員、神奈川県*の*会員・*会員・*会員・*会員、石川県の*会員、岐阜県の*会員、滋賀県の*会員、京都府の*会員、和歌山県の*会員、島根県の*会員・*会員、佐賀県の*会員、大分県の*会員、海外の*会員から2022年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。なお、未納会費のある会員については、引き続き滞納会費の納入を求める。

議案第715号 2022-23年度の協会賞選考委員会における正・副委員長の承認について

佐藤副会長から、2022-23年度の協会賞選考委員会では、設楽博己会員を委員長、松本直子会員を副委員長として選任したいとの説明があり、原案通り承認された。

議案第716号 第13回日本考古学協会賞の選考結果の承認について

佐藤副会長から、3月7日（火）に第13回日本考古学協会賞選考委員会を開催し、①応募のあった3件の審査を行った結果、大賞に門田誠一氏『魏志倭人伝と東アジア考古学』、奨励賞に加藤一郎氏『倭王権の考古学—古墳出土品にみる社会変化—』を選考した。②優秀論文賞については、機関誌『日本考古学』編集委員会から『日本考古学』第53号に掲載された阿部芳郎氏・栗島義明氏・米田 穰氏「縄文土器の作り分けと使い分け—土器附着炭化物の安定同位体分析からみた後晚期土器器種組成の意味—」、及び英文機関誌編集委員会から『Japanese Journal of Archaeology』Vol. 9, No. 2 に掲載された光本 順氏

「Bodily Representation and Cross-dressing in the Yayoi and Kofun Periods」の推薦があり、受賞にふさわしい旨を確認したとの報告があり、審議の結果、原案通り承認され、第89回総会で表彰されることとなった。

議案第717号 2023年度予算の承認について

谷口理事から、財務会議において予算要求の見直しを各委員会の今年度の実績を鑑みて行い、2023年度の一般会計予算案は、①収入はコロナ禍の影響により引き続き旅費交通費の使用が制限されたことから前期繰越収支差額が増額となるものの、会員数の減少により会費収入が減額となる。②支出は、個別の事業として、英文機関紙編集委員会・国際交流委員会・埋蔵文化財保護対策委員会について今年度実績から要求額の大幅な削減を行った。③予算要求を確認した際に、事務局職員の給与について基礎額が6年間改定されておらず現在の社会状況と大きな差額があることから、今後精査して検討することが説明された。続けて肥後理事から会費収入が減額となり厳しい財政状況であることから、各委員会・事業に予算執行について配慮が求められた。

また社会長から、①『Japanese Journal of Archaeology』についてはこれまで科学研究費補助金で刊行してきたが来年度は申請しておらず、刊行を協会の一般会計で行うことから刊行に関わる経費以外は削減としたこと、②コロナ禍により増額となった繰越金を使用して公式サイトのリニューアルを行うとの補足説明があり、各事業において予算を上回る支出となる場合は財務担当理事への相談が求められた。

審議の結果、一般会計2023年度予算は原案通り承認された。

議案第718号 理事選挙制度検討小委員会の担当理事について

社会長から、現理事会での理事選挙制度検討小委員会の担当理事が未定だったことから、組織担当の小菅将夫理事を担当理事とするとの説明があり、原案通り承認された。

議案第719号 現常務理事兼事務局長の退職及び新事務局長の任命について

社会長から、現常務理事兼事務局長の高麗正事務局長が本年3月31日をもって定年退職し、次期事務局長として東京都の山崎和巳会員を任命したいとの説明があり、原案通り承認された。

議案第720号 新常務理事候補の総会提案について

社会長から、定款第48条に基づき、第89回（2023年度）総会に、新たに事務局長となる東京都の山崎和巳会員を常務理事として提案したいとの説明があり、総会に諮ることを承認した。

報告第924号 2023年度名誉会員選考に関わる推薦書について

大竹副会長から、1月理事会議案第710号で名誉会員の推薦が承認された木下正史会員の名誉会員推薦書の提示があり、一部軽微な修正の上、了承された。

報告第925号 2023年度第89回総会における理事の役割分担について

野口理事から、第89回総会日程と進行、及び理事役割分担案の提示があり、1日目・2日目ともオンライン配信と会場のハイブリッド方式での開催により理事の役割分担も多いため、各理事に協力が求められ、了承された。

報告第926号 2023年度第89回総会議事に関わる報告担当理事の口頭報告原稿について

田尻理事から、第89回（2023年度）定時総会時の各報告担当理事に説明原稿の作成が依頼され、4月までの提出が求められた。

報告第927号 退会勧告に関わる退会会員の取扱の経過と承認について

辻会長から、2022年7月理事会議案第700号で退会勧告を行った会員についてその後の経過説明があり、本理事会に退会届が提出され先ほど承認されたとの報告があり、了承された。

報告第928号 2022年度第2回賛助会員学習交流会の実施報告について

大竹副会長から、3月4日（土）に2022年度第2回見学会「栃木県侍塚古墳発掘調査見学会」を実施し、侍塚古墳発掘調査現場の見学や大田原市なす風土記の丘等の周辺遺跡を見学し好評を得たとの報告があり、了承された。

報告第929号 アウトリーチワーキンググループの報告及び2022年度第7回カフェde考古学の実施報告

大竹副会長から、①2月11日（土）にカフェde考古学第7回「ここまでわかった旧石器時代」を46名の参加を得てオンラインで開催し、終了後のアンケートは概ね好評であったことが報告された。②2月28日（火）にアウトリーチワーキンググループを開催し、2023年度のカフェde考古学の進め方について、参加人数や広報の方法、事後アンケートの実施方法について協議したとの報告があり、了承された。

報告第930号 各委員会等における2022年度会議等報告について（その6）

1 広報委員会の報告

野口理事から、2月6日（月）にオンラインで、2月26日（日）に対面とオンラインのハイブリッド方式で委員会を開催し、公式サイトのリニューアルについて検討を行ったことが説明された。①リニューアル費用の参考見積りを依頼した業者から、現在及び旧公式サイトで使用しているシステムにセキュリティ対策の必要があるとの指摘があり、対策をとれるものについては現在の公式サイトに管理会社に対応を依頼する。②新公式サイト掲載コンテンツの選別作業の進め方やリニューアル事業の作業工程について検討した。③総会時のオンライン申込システムについて、今年度の公式サイトリニューアルに合わせて導入したいとの提案が企画担当理事からあり、協議の結果、承知した。④新公式サイトを作成業者の選択方法について協議した。⑤公式サイトリニューアルのスケジュールを確認したとの報告があり、各事業・委員会に関係するコンテンツの確認について各担当理事に先々の協力が求められた。

2 社会科・歴史教科書等検討委員会の報告

小菅理事から、2022年12月11日（日）及び2023年2月5日（日）に委員会をオンラインで開催し、①小学校の教科書に旧石器時代の記載を求める文部科学省への働きかけについて、他学会と連携して行う準備を進めている。②2023年度予算要求内容を協議した。③教科書通信第18号・19号の作成について協議した。④リニューアル後の公式サイトに新たに掲載を計画しているWebコンテンツについて検討を行い、公式サイトリニューアルのスケジュールに合わせてコンテンツ内容を整える。⑤2月11日（土）実施の「カフェde考古学」の進め方について確認を行った。また、来年度の同事業についての概要を検討したとの報告があり、了承された。

3 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

藤野理事から、2月12日（日）及び3月11日（土）に幹事会を対面とオンラインのハイブリッド方式で開催し、①港区高輪築堤跡について、高輪築堤調査・保存等検討委員会のJRと京浜急行それぞれの部会の議事録、及び新たに設置された「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の議事録が公開されたことを受けて協議し、引き続き注視する。②広島市広島城跡（三の丸地区）の整備計画について回答があり、今後の対応を協議した。③3月2日（木）に文化庁との懇談を実施し、近現代遺跡や重要遺跡リスト等について意見交換を行った。④カフェde考古学2023第1回について協議した。⑤栃木県小山市長福寺跡の開発計画に伴う調査について文化財行政体制の指摘があり現状把握を行う。⑥外国資本による開発行為に伴う埋蔵文化財調査における課題についての情報提供があったとの報告があり、了承された。

4 理事選挙制度検討小委員会の報告

小菅理事から、2022年12月21日（水）に理事選挙制度検討小委員会を対面とオンラインのハイブリッド方式で開催し、①これまでの活動経過について整理し、コロナ禍に伴う「危機対応マニュアル」の作成や理事選挙制度に関わる「日本考古学協会規則」の改定等を行ったことを確認した。②「日本考古学協会規則」の改定後に実施した2022年開票の理事選挙について、無効票が減り、公平性の維持の観点から問題はなかったことを確認した。③今後の課題として、地域ごとに一票の格差があるとの指摘があったとの報告があり、今後の検討事項について意見が出された。

5 アーカイブス小委員会の報告

足立佳代理事から、アーカイブス小委員会の2022年12月以降の作業概要として、会員名簿関係資料のまとめとスキャン作業の実施、及び弥生式土器文化のアーカイブスデータ化を進めたとの報告があり、了承された。

6 陵墓の報告

岩本理事から、①2月28日（火）にオンラインで陵墓関係16学協会の運営委員会を開催し、主に陵墓の学術名称に関するワーキンググループの立ち上げについて協議した。②本年度の立入り観察が3月3日（金）に、菅田御廟山古墳（応神天皇恵我藻伏岡陵）を対象

として実施され、周濠を渡って墳丘に立入ることから8学協会8名に参加が限定され、当会からは岩本理事が参加し、事後検討会には岩本理事・日高理事が参加した。なお、今年度立入りできなかった8学協会8名については来年度に実施予定である。③立会調査見学が、2月15日（水）に高倉天皇后清閑寺陵で、3月9日（木）に市庭古墳（平城天皇楊梅陵）（2回目）が実施され、当会からはいずれも日高理事が参加した。続けて、3月14日（火）に越知陵墓参考地で、3月17日（金）に宇倍野陵墓参考地で実施され、当会からはいずれも澤田理事が参加したとの報告があり、了承された。

7 年報の報告

大坪理事から、年報担当では、印刷部数の減による印刷費の削減や会員の利便性の向上が見込めることから『日本考古学年報』の電子化（PDF化）を検討している。会員の要望に合わせて紙媒体も継続しつつ、PDFによる配布を希望する会員にはホームページからダウンロードできるようにすることを検討中であり、今後の課題として、著作権の処理や販売に関わる事項の整理等が必要であるとの説明があり、各理事に意見が求められた。

報告第931号 2022年度下半期・正副会長会務報告

佐藤副会長及び大竹副会長、辻会長から、定款第24条第3項の定めにより、それぞれ2022年度下半期の各種事業・会議の参加等、職務執行状況について資料の提示があり、報告された。

報告第932号 会費高額滞納者への催促状況と今後の対応について

谷口理事から、1月理事会で各理事に分担して3万円の高額滞納者への督促をお願いしたところ、多くの会員に支払いただいたが、3月19日現在まだ23名が会費未納入であるとの説明があり、各督促担当理事に再度の催促が求められた。

報告第933号 事業等に関わる後援名義使用の承認について

佐藤副会長から、日本西アジア考古学会及び第30回西アジア発掘調査報告会実行委員会から「第30回西アジア発掘調査報告会」についての後援（名義）依頼があり、名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

以上